

〒135-0063
東京都 江東区有明 3-4-10 T F Tビル西
館7F 株式会社デルソーレ内
食品業界女性経営者ネットワーク（通
称：WF-NET）
大河原 愛子 様
2303-1962 000002

KATARIBA

NPOカタリバへのご支援の御礼

この度はNPOカタリバの活動に共感くださり、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。あたたかいお気持ちに、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。お申込みいただいた皆様のご寄付は、新型コロナウイルスの感染拡大、貧困や被災などによって、居場所や学びの機会が失われるといった困難な環境にいる子ども達のために大切に使用させていただきます。子どもたちからのお礼のお手紙を同封いたしました。ぜひご高覧いただければ大変嬉しく思います。

お一人お一人の想いを、学びの機会や温かい食事、安心して過ごせる環境に変えられるよう、目の前の課題と真摯に向き合いながら取り組んでまいります

どんな環境に生まれ育っても、「未来はつくれる」と子どもたちが信じられる社会のために、一緒に歩いていただければ幸いです。引き続き、ご支援・お見守りのほど、どうぞよろしくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人カタリバ

代表理事

今村久美

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ203

TEL: 0120-130-227(フリーダイヤル)

Email: kaiin@katariba.net

カタリバが出会った子どもたちからの手紙

私は中学3年生からアダチベース^{*}に通っています。アダチベースに来て、たくさんの人と出会うことができ、そして色々なことに挑戦するチャンス、環境、勇気をもらうことができました。

今の私が居るのはアダチベースです。ここは日々があるからだと思います。通い始めた頃は家にも学校にも居場所がなく毎日「生きる」ということがすごく辛かったです。そんな私ですが、今では毎日が充実しているから生きるということを楽しめるようになりました。こう思えるようになったのは、アダチベースのスタッフの皆さんや仲良くなった友達のおかげだと思います。将来の夢もしたい事もなかり、私ですがアダチベースですごくしてきて夢も見つける事ができました。ただいま「おかえり」が言えるようにあったかい食堂を、皆の居場所をつくる。これが私の一生の夢になりました。

たくさんぶつかってしまっ事もあったけど私のすべてを受け入れてくれて支えてくれた、ボランティア、インターン職員、皆さん。そしてアダチベースで出会い一緒にすごしてきた友達に本当に本当に感謝しています。この手紙に書ききれないほどたくさん思い出があります。アダチベースですごくして4年間、私の一生の宝物です。どんな底にいても私に手を差し伸べてくれて私を救ってくれて本当にうれしかったです。私はアダチベースが大好きです。

*「アダチベース」とはカタリバが運営する放課後施設の名称です。



カタリバは全国6か所の拠点とオンラインを通じて年間約10万人の子どもたちを支援しています。多くの子どもたちは高校を卒業するタイミングで、カタリバも卒業します。そのとき、これまでを振り返り、カタリバを通じて学んだことやこれからの夢を文字にしてくれました。

KATARIBA

私は中の答からアガベースに通っているの？、あ、おもしろい言葉ではあるけれど、
 意味がわからない。自習も授業も食事もイベントもスタッフさん連とおしゃべり
 も、全部が本当に楽しかったです。やっぱり一番はスタッフさん連とおしゃべり
 でした。特に私と話す相手はアガベースのスタッフさん連だし、
 弱音も吐ける場所でした。

6年間、本当にありがとうございました。コロナがあった
 中でも勉強がきちんとできる環境を与えてもらったことや、
 楽しい思い出などがあつたと本当に感謝しています。
 大学進学後も夢に向かって頑張っていくので、
 ここで学んだことを今後の生活に活かすことができ
 るようにがんばります。



どんな仕事か？という生き方をしたいか。将来の自分の夢を
 全くと言っていいほど「明確」できていないからと私は、今何を優先してやる
 べきなのか？分からず、なんとなく毎日過ごしていて、受験勉強に励む
 反面と比較しては「落ち込んで」精神的に追い詰められていた中で
 家族でも反対でいい関係を「メンター」という存在を通じて築けたこと
 で今更「言葉」が通ったことに感謝しています。その一歩に答えてくれる
 人ができて、少しずつ自分と向き合えるようになっていきました。このプログラムを通して
 “自分を考える”時間が大切だということ、そしてその方法を学ぶことができた。

※「メンター」とは子どもに伴走する担当スタッフのことです。



コロナや災害、経済的に厳しい環境にあるなど様々な困難を子どもたちは抱えています。しかし
 「私には応援してくれる人がいる」と感じることで、未来への一歩を踏み出すことができます。カタリバ
 は子どもたちを一人きりにはせず、一人ひとりの想いに向き合い伴走します。